

【平成 17 年度】

賞	内 容	受賞者	概 要
学術研究 大賞	緑茶効能発現の分子基盤の研究	伊勢村護 (静岡県立大学食品栄養科学部教授)	緑茶の効能である抗がん作用、抗糖尿病作用、肝炎抑制作用などの作用解明に関し、細胞レベルと動物実験を用いてその作用機作の解明に取り組み、先駆的な研究成果をあげ、緑茶効能研究のパイオニア的役割りを果たしてきた。また 2001 年、2004 年の国際 O-CHA 学術会議の運営など茶に関する研究成果の情報交換、広報に大きく貢献してきた。
	チャの窒素栄養特性と茶栽培地域の窒素動態に関する研究	森田明雄 (静岡大学農学部教授)	チャの窒素栄養生理に関して非放射性同位窒素を用いた独創的な手法により、チャの窒素吸収・栄養特性について新たな知見を示した。更に簡易栄養診断法など生産現場において普及可能な施肥削減技術開発を行い、日本茶業が直面する環境問題の解決に向けて、環境負荷の少ない茶栽培技術の確立に欠くことのできない研究成果を挙げた。
O-CHA 大使特別賞	お茶の楽しみを広げつづけるパイオニア	石川美知子 (NPO 法人 食茶の会会長)	「静岡県お茶と水研究会」や「食茶の会」など、数々の茶に関わる組織の設立に関わり、お茶の素晴らしさを伝え、食材としての活用を広げるための活動を精力的に展開してきた。また、世界お茶まつりをはじめ、数々のイベントにおいてお茶を使った新たなライフスタイルや空間を提案するとともに、お茶を使った新商品開発や様々なメディアでお茶の PR 活動を進めるなど、お茶の普及に大きく貢献している。

【平成 16 年度】

賞	内 容	受賞者	概 要
<p>O-CHA 大使特別賞</p>	<p>日本茶インストラクター制度の確立と日本茶の普及活動</p>	<p>NPO 法人 日本茶インストラクター協会 理事長 原田昇左右</p>	<p>伝統的な茶文化への理解と新時代に適合した新しい喫茶文化を創造するため、日本茶インストラクター協会を設立し、全国の 3000 人以上もの会員が、日本茶のおいしい淹れ方講座などを実施し、日本茶への関心を高めた。</p>
<p>学術研究 大賞</p>	<p>生活習慣に関連したお茶の抗酸化機能研究</p>	<p>富田勲 (静岡産業大学国際情報学部)</p>	<p>茶の抗がん作用に関する先駆的な研究をはじめ、動脈硬化抑制作用など、多数の成果をあげカテキン研究のパイオニア的役割を果たしてきた。また、茶学術研究会会長として茶効能研究の牽引的役割を担っている。</p>
<p>産業技術 大賞</p>	<p>近赤外分光分析による茶生葉成分測定法の確立及び生葉品質評価装置の開発とその実用化</p>	<p>近赤外茶生葉品質評価研究会 (代表者 後藤正：静岡県茶業試験場)</p>	<p>機器を用いた茶の品質の客観的評価を可能とし、茶栽培及び加工技術向上に大きく貢献した。また、機器メーカー、試験研究機関、生産者の産官民共同により、現場活用を主眼とした技術開発の新たな方向性を示した。</p>
<p>創造的 新商品大賞</p>	<p>ヘルシア緑茶</p>	<p>花王株式会社 代表取締役社長執行役員 尾崎元規</p>	<p>健康という時代のニーズに合った商品開発を行い、お茶を利用した初めての特定保健用食品となった。また、高カテキン含有飲料のブームの先駆けとなり、茶の需要拡大に大いに貢献した。</p>

【平成 15 年度】

賞	内容	受賞者	概要
学術研究 大賞	茶の起源及び伝播に関する研究	松下智 (豊茗会会長)	茶の原産地が中国西南地方であることを明かにし、日本の茶は、中国から伝播したことを現地調査により証明した。
	緑茶および緑茶カテキンのがん予防効果に関する研究	小國伊太郎 (静岡県立大学名誉教授)	お茶をよく飲む地域に[がん]が少ないことに着目し、統計学的に緑茶飲用によるがん予防の可能性を明かにした。
産業技術 大賞	緑茶ドリンク製造に関する茶浸出液の酸化防止及びクリアー技術の開発	株式会社伊藤園 代表取締役社長 本庄八郎	緑茶ドリンク(缶)のレトルト臭を防ぐ技術及び緑茶の自然な美味しさを守り、クリアーな緑色を保持する技術を開発した。

【平成 14 年度】

賞	内容	受賞者	概要
学術研究 大賞	茶香気の体系的研究とその成果「茶の香り研究ノート」の出版	川上美智子 (茨城キリスト教大学教授)	世界各種の茶の製造法と香り変化の関わりを研究し、多くの新規香り成分を発見、その研究成果を出版し広く公表した。
産業技術 大賞	シーマ製茶法及び機械装置	磯谷恵一 (企業組合静岡機械製作所会長)	150℃から 400℃の加熱熱風を使用して殺青(発酵酵素の不活化)と乾燥を行う革新的な製茶法を開発した。
O-CHA 大使特別賞	大学における茶の総合学の開講・教育	寺本益英 (関西学院大学助教授)	茶に係わる人文、社会、自然科学及び茶道などの関連分野まで含めた総合的な講義を開催し、2 ヶ年で 1,500 名の受講生を得た。

【平成 13 年度】

賞	内 容	受賞者	概 要
学術研究 大賞	お茶の香気成分の研究	山西 貞 (お茶の水女子大学名誉教授)	茶の香りの研究で世界的に高く評価されるとともに茶産業の発展に大きく貢献
	法門寺出土茶具の研究	韓金科 (中国陝西省法門寺博物館長)	法門寺出土の茶具等を基に唐代の茶とその周辺文化の研究を総合的に展開
産業技術 大賞	茶カテキンの分離精製技術の開発及びその機能性解明と産業化	東京フードテクノ株式会社	茶カテキンの大量分離精製技術の確立、その成果に基づく商品開発により新たな茶成分利用産業を創出
O-CHA 大使特別賞	お茶の達人道場・日本茶セミナー・日本茶カフェ	繁田和則	「お茶達人道場」、セミナーなどを主催し日本国内のみならず米国等で茶の普及に尽力
	「お茶の郷博物館」運営事業	金谷町お茶の郷振興協会	我が国随一のお茶専門博物館として茶の消費や茶に係る生活文化の提案など様々な活動を展開、また海外とも積極的に交流